

文教厚生常任委員会報告

平成 30 年 6 月 8 日
委員長 吉住長敏

文教厚生常任委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際しましては、平成 30 年 4 月 25 日に保健福祉部、27 日に教育部に対し関係部課長等に出席を求め委員会を開催いたしました。冒頭、保健福祉部、教育部の両部長より、今年度の部の経営方針について説明がありました。また、教育部審査に先立ち古賀市教育大綱一部改定内容、平成 30 年度古賀市教育行政の目標と主要施策に関して部課長より説明を受け、若干の質疑を行いました。

保健福祉部

隣保館 (24 分)

隣保館係から、平成 29 年度地域交流促進事業、就労サポート講座事業、地域人権福祉教室事業、スタンドアローン支援事業の前回報告以後について、平成 30 年度ひだまりパスポートの年 6 回への回数変更について、韓国文化講座を数カ国の講師を招いた異文化講座とすることについて、ひだまり館まつりを単独開催に戻す変更内容について概要説明。

委員から、消費者、法律相談窓口に変更は無いかの問いに、従前どおり。高齢者の認知症予防、子どもの貧困対策との関わりの問いに、職員が関わることにより、それ以前の予防する隣保事業に心がけたい。異文化講座への変更の背景と講師の問いに、今は様々な国の方が市内又は近郊に居住していることを踏まえ選定中。市役所とひだまり館とのタクシー利用の問いに、1 月以降の無料券発行は 2 枚。ひだまりパスポート事業の全回参加者数の問いに、7、8 割程度とのこと。

子育て支援課 (2 時間 1 分)

子育て支援係から、子ども・子育て支援事業、乳児家庭全戸訪問等事業、母子保健事業、古賀市合計特殊出生率、子どもの実態調査について、保育・手当係から、保育所の入所、病児・病後児保育事業の利用状況、子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて、子ども家庭係から、こども発達ルーム及び相談件数について概要説明。

委員から、つどいの広場等の利用減をどうみるかの問いに、保育所利用者が 40%を超え、利用対象者が減少傾向。つどいの広場等利用の数は在宅育児者の比率でとらえる。合計特殊出生率の古賀市独自と全国との比較の問いに、速報値のために編み出した手法であるが全国算定の対象者と大きく違いはないと見ている。子育て世代包括支援センターの開設時期の問いに、今年度準備し来年度に開設したい。子どもの実態調査による子どもの貧困率 19.1%をどう見るかの問いに、調査自体数字を求めるものではなく、どんな支援をやるかのためであり、単純な数字からの判断は難しい。この調査をどう生かすかの問いに、相談体制の充実が必要と考えており、子育てBOOKに相談機関一覧を掲載し、全戸訪問で配布。鹿部保育所での子どもの貧困についての問いに、私立より保育料以外の費用負担の軽減に努めている。ひとり親家庭に対する情報の届け方の問いに、児童扶養手当申請時での対応、携帯電話等の活用を研究したい。保育士の確保は大丈夫かの問いに、4 月の入所協議段階で保育士確保を進め配置基準を順守。病児保育について福津市での利用者の把握の問いに、年度末に提供いただき実績を把握し、市内 2 園目の病児保育の開設を進めたい。来年度の保育所定員増と対応の問いに、保育所整備に合わせ 0 歳から 2 歳児の定員を増やしたい。企業主導型保育の協力も得ながら待機児童がないよう進めたい。保育士不足から保育士が妊娠、出産を順番で決める報道があったが古賀市ではの問いに、実態はつかめていない。こども発達ルームの委託について詳細説明の求めに、集団指導と個人指導の 2 つの療育指導の内、まずは集団指導の一部を委託方向。民間の療育施設が増えノウハウもあり、委託内容は今後検討していく。

福祉課（56分）

福祉政策係から、避難行動要支援者避難支援対策の進捗状況、古賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定スケジュール、古賀市子どもの貧困対策推進計画策定スケジュールについて、障害者福祉係から、障がい者の現況、障がい者就労等支援状況、第5期古賀市障害福祉計画・第1期古賀市障害児福祉計画について、保護係から、生活保護の現況、生活困窮者自立相談支援事業について概要説明。

委員から、地域福祉計画や子どもの貧困対策推進計画の計画期間、公募委員の数の問いに、今後、社会福祉協議会との足並みを揃え、また、策定委員会で諮ることになる。公募はどちらも2人程度。要支援者対象者の台帳について災害時の機能は有効かの問いに、民生委員による高齢者調査によるもので、これを一つのツールとし自主防災組織で活用を繰り返しながら地道に機能化したい。要支援者台帳を使つての訓練をしている行政区の数の問いに、詳細は把握していないが個別計画を策定しているのは、28行政区。障がい者の仕事による収入面の問いに、障害福祉サービス事業所A型での平均工賃は、1日5時間、週5日勤務で7～8万円程度。児童発達支援センターの設置計画の問いに、国の指針もあり平成32年度末までに色々なバリエーションにより対応を検討していく。

介護支援課（57分）

介護予防係から、平成30年度事業予定、包括支援センター係「寄つて館」から、今年度事業の状況、介護予防・日常生活支援総合事業の利用状況、新たな認知症施策である認知症初期集中支援推進事業について、介護保険係から、介護保険サービスの利用状況について概要説明。

委員から、88歳の長寿祝賀事業について記念品としてのカタログ贈呈は問題はないかの問いに、事前調査ではほとんどがスムーズに移行しており、指名型プロポーザルにより問題が起きないように丁寧に対応していく。カタログ詐欺等顧客リストの横流しの危うさの対応の問いに、守秘義務に徹底。「ゆい」の体制変更でトラブルはの問いに、専任配置や社会福祉協議会内の連携などでスムーズに移行している。高齢者支援で社会資源の見える化とはの問いに、生活支援コーディネーターが週3回情報を収集しており、年度末までに地域の介護予防や日常生活支援に関する情報等を記載した見える化マップを作成。介護保険料の負担軽減に向けた取組の問いに、認知症対策や在宅医療と介護の連携に重点をおき保険料に大きな影響を与えないような事業展開をしていく。認知症初期集中支援推進事業の問いに、今年度は40歳以上で認知症が疑われる5ケースを検討予定。認知症早期発見の対応の問いに、健康チェックの形で包括支援センターの地域担当が積極的に関わっていく。ヘルス・ステーション事業の介護保険特別会計への移動の意味あいの問いに、高齢者の介護予防を含めた健康づくりを介護保険の補助対象として継続し、広がるように踏まえた。要支援1、2のサービス利用者減をどう把握しているかの問いに、住宅改修サービス等を受けた後、更新しないケース等が考えられる。

予防健診課（53分）

健診指導係から、特定健診・がん検診等の受診状況、予防接種事業の実績、第2期古賀市国民健康保険健康事業実施計画について、健康づくり係から、ヘルスアップぷらん（健康増進計画（第二次）・食育推進計画）の推進、自殺対策計画策定について概要説明。

委員から、過去1回しか麻しんの予防接種をしていない方への対応の問いに、特に呼びかけはしていないが周知を検討する。子宮頸がんワクチン接種のその後の状況の問いに、昨年度は接種者はいない。5人の健康被害を訴えた者には定期的に電話連絡し状況を確認。保健師の体制の問いに、5月から1人が育休復帰。特定健診受診率について平成35年に60%への対応の問いに、地域での機運を高めるのが大事。未受診者で医療を受けている方が45%もあり、そことの連携を強化したい。国保連合会からの情報提供にも新たに取り組みたい。野菜もりもり応援店の活動の現状の問いに、13店舗。平成35年度末までに27店舗の認定をめざす。平成29年度の自殺者数の問いに、平成29

年1月から12月で9人。歩く王事業を企業だけでなく市民に広げてはの問いに、今回で得た成果を市民にも還元した取組をやりたい。学校の自動販売機にあるスポーツドリンクは糖分のとり過ぎであり何らかの取組をの問いに、幼児健診の場で砂糖の量を提示し教育につないでいる。肥満傾向児の出現率の対応も含め健康チャレンジ10か条推進の面からも学校と連携したい。

教育部

教育総務課 (49分)

庶務係から、学校閉庁日の取組について、施設管理係から、平成30年度学校施設整備の主たる工事等の進捗状況及び古賀市学校施設長寿命化計画について概要説明。

委員から、学校での閉庁日はないのか、他の自治体の状況はの問いに、これまで設けていない。今回の取組でお盆は日直も置かない。また、緊急時対応について今年は教育委員会2課で対応。通学路の安全について学校との連携の問いに、毎年年度初めに学校からの危険箇所の提出に基づき県、市、警察、交通安全協会の合同点検で通学路交通安全プログラムを実施。学校施設長寿命化計画と人口推計との兼ね合いの問いに、上位計画である公共施設等総合管理計画のまち・ひと・しごと推計値の使用であり、それに準拠しつつ10年ごとに見直し点検する。児童生徒数増による教室不足の事態はないかの問いに、小野、古賀西、花鶴、花見小学校が増加傾向にあり注視し計画的に整備。エアコン設置スケジュールの問いに、平成30年度に小学校4校の設計、31年度に前年度設計した4校の工事と残りの小学校4校の設計、32年度に前年度設計した4校の工事と中学校3校の設計、33年度に中学校3校の工事を行い完了を計画。今後の洋式トイレの整備計画に変更は生じないかの問いに、補助金の採択や財政状況による。営繕工事における市内業者活用の問いに、入札参加資格リスト等から発注し、市内業者のフットワークを活用。学校には修繕等の業者リストを渡すなどしている。フェイスブックの活用度はどの程度かの問いに、把握できていない。

学校教育課 (39分)

学校教育課長から、平成29年度不登校児童生徒数、平成30年度文部科学省の基本調査による学級編制一覧、平成30年度学童保育所の入所状況、平成30年度「展望～夢をあきらめないで～」、平成30年度少人数学級対応講師等の配置、平成30年度古賀市高等学校等入学支援金支給状況について概要説明。

委員から、古賀東小学校学童の増設の問いに、学校内の施設を活用することで共通理解をしている。学童保育所連絡協議会の開催内容の問いに、年2回各施設長と学校教育課とで運営等について協議を行っている。花鶴小学校で一部の学年が35人以下学級になっていない理由の問いに、担任に充てる県の指導方法工夫改善教員の配置数が2人だったため、3、4年生が35人を超えた編制にせざるを得なかった。学童保育指導員確保の推進に対する対応の問いに、委託先だけでなく学校教育課でも探し支援している。いろいろな人的バンク等の活用を今後も続ける。適応指導教室あすなろの移転先の状況の問いに、場所が変わってもすでに学習活動が粛々と始まっている。あすなろに来ていない子どものフォローの問いに、学校にはステップルームといったような別室があり、そこで自分の居場所を確保し学習を行えるよう指導している。中学校不登校の数が多理由の問いに、家庭環境の影響、ゲーム依存等がある。いじめの現状の問いに、いじめの定義が変わり、子ども自身が心身の苦痛を感じていたら認知するよう文部科学省より通達があり数が増えているが、学校で見逃さず対応することで解消されていっている。小中学校における新入学児童生徒学用品費について入学前の支給はできないかの問いに、転出入の関係があり厳しい。

生涯学習推進課 (36分)

社会教育振興係から、平成29年度社会教育振興事業一覧及び平成30年度社会教育振興事業計画について、スポーツ振興係から、平成30年度スポーツ振興係年間事業計画及び運動・スポーツ(身体活動)に関するアンケート調査結果について、公民館係から、平成30年度コスモス市民講座(前

期) について概要説明。

委員から、歩いてん道の整備やイベント企画の事前チェックの問いに、整備は建設課。ウォーキングの際は歩いてん道Dの好会と試し歩きを行った上でコース設定する。今年度は地域コミュニティと連携した事業を展開したい。交流館のキッズコーナーの場所とレイアウトの問いに、親御さんの目が届く形で利用できるようしばらく様子を見たい。交流館を高校生だけで利用できる工夫をの指摘に、破損した場合の弁償の問題もあり高校生のみ利用は制限。週1回以上の運動・スポーツをやる割合58.4%は実態に即しているか、回答者の年齢はの問いに、ウォーキング等一人でやっているとの認識も含めた1,500人の無作為抽出によるもので信頼性は高く、健康づくりにつながる意識は高まっている。回答割合は70歳以上が14%、65歳から69歳が12%。交流館無料スペースの利用者数のカウント方法の問いに、11時、13時半、16時半前後に3回実施。

文化課 (1時間01分)

文化財係から、船原古墳関係事業の進捗状況と来年度以降の計画について、文化振興係から、今年度歴史資料館事業と文化事業計画について、図書館係から、今年度事業計画について、市史編さん準備係は、今後の方向性と骨子を示す準備を進めるとの説明。

委員から、船原古墳の子ども向けパンフレット作成の問いに、概要報告書は専門向けだがパンフレットは一般向けで検討。史跡道路サインの設置の問いに、これから協議に入る。アートサポート養成講座の内容の問いに、市の美術品を生かすのは職員力では難しく県立美術館の協力を得ながら6月に第一回を開催。子ども絵画教室における学びの最中にある竟成館高校生のかかわり方の問いに、美術を好きになってもらうのが一番で年齢が近い立場から身近に感じてもらえるよう協議中。レッツトライ!の取組、コーディネーターの必要性の問いに、資金面で課題があるが今後も側面支援は続けたい。学校図書館司書と市立図書館の関わりの問いに、小学校1年生のどくしょノート配布とおはなし会に出向いたり、夏休み中学生読書サポーター養成講座を実施。学校教育課主催の研修会でお知らせをすることは年数回ある。歴史のアルバムの内容の問いに、今年度は養徳山の作成で今、勉強中。今年度ホームページに掲載予定。資料収集整理活動の問いに、特段の計画はないが昨年度は高齢者の聞き取りを6件行った。公共施設の美術展示の入れ替えの問いに、昨年度は市役所6階の絵画の入れ替えを行った。今年度も考えたい。

青少年育成課 (13分)

青少年育成係から、平成29年度、児童館・児童センター事業、古賀市少年センター事業について概要説明。

委員から、花見小アンビシャス広場の休会理由の問いに、主に人材不足が原因で、再開に向けた協力をしている。青少年支援センター移転後の相談状況は以前と変わらないかの問いに、電話番号も引き継いでおり、滞りなく移行できている。移転周知の問いに、広報2月号、フェイスブックで周知徹底を図っている。

学校給食センター (16分)

学校給食センター係から、平成29年度の給食提供事業及び食育推進事業の報告、地元農産物使用状況及び食器破損状況の報告、平成30年度食育推進事業計画について概要説明。

委員から、給食運営委員会の開催意義、意見を出しやすい工夫をしてはの指摘に、PTA推薦委員に給食物資の流れ、衛生面を理解いただくよう努め、会議形式は検討したい。古賀産スイートコーンの使用予定の問いに、農林振興課とも打ち合わせ積極的に利用する方向。

以上、議会閉会中の調査事項の付託案件について調査の概要報告を終わります。